

防災訓練

課題踏まえBCP の実効性高める

大成ロテック

大成ロテックは、大規模災害対策訓練を全国の拠点で実施した。写真。「大規模災害発生直後に必要な判断力を養う」ことをテーマ



に、平日の業務時間中に南海トラフ巨大地震が発生したことを想定。訓練の前提となる被災想定を直前まで明かさず「シナリオブラインド形式」でリアルタイムに訓練した。同社とグループ会社の社員1658人が参加した。新たに、外部の有識者による防災セミナーや帰宅困難者の発生を想定した訓練、本社での災害用備蓄品の配布訓練を取り入れた。

災害時の通信手段として一部の支社に導入した非常用通信機器を全支社で採用し、シナリオブラインド訓練と連携した通信訓練、システムを使った従業員の安否確認訓練、被災支社の要請を待たず自発的に支援を始める「ブッシュ型支援」の訓練も実施した。

訓練後の講評で加賀田健司社長は「災害は大きく備え、小さく収めることが基本である。想定外をゼロにするため、日頃から災害を想定した行動を心掛けることも、今回の訓練で認識した課題を水平展開し、BCP（事業継続計画）の実効性を高めてほしい」と総括した。

無断転載・転写不可

